

# あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌  
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日/2010年1月1日 ●発行所/(財)淡海文化振興財団

No.

72

2010年  
1・2月号

特集●淡海トピックス

## まちのバスを考える ～市民でつくる公共交通～

### ■NPOさぼーとぼけっと ①

NPO法人と登記手続き

### ■市民団体活動紹介NPOのわっ ⑤

- 草津点字グループ「あゆみ会」
- 特定非営利活動法人 麻生里山センター
- 特定非営利活動法人 青山まちづくりネットワーク

### ■あうみネット★INFORMATION ⑦



### 第5回「外来魚情報交換会」

開催日●1月30日(土)31日(日)

時間●(30日)13:00～17:30、(31日)10:00～13:00

会場●大学サテライト・プラザ彦根(JR琵琶湖線「彦根駅」前)

参加費●無料(事前申込必要)

連絡先●琵琶湖を戻す会事務局 TEL:090-8527-3752

私たちの活動の場は琵琶湖ですが、スタッフの大半が県外者で遠くは関東や四国からイベントの度に駆けつけています。

1月には外来魚に関する情報を日本各地から持ちよって交流する場を設けますので、ぜひ皆さんもご参加下さい。



### 子育て世代に必要な防災力って何？ —子育て防災トレーニング—

日時●2月11日(木)10:00～12:00

場所●水のめぐみ館

ウォーターステーション琵琶(旧南郷洗堰側)

参加費●無料

連絡先●NPO法人子どもネットワークセンター天気村

TEL:077-564-7868

親子で気軽に防災(水害)への取り組みや避難における大切なポイントを学習して、日常的に減災への意識をもちましょう。



## 運営委員 VOICE

### 「市民活動は“ひと”との出会い」

尾崎 史  
(特定非営利活動法人あさがお 所長)



浜大津の町家に「あさがお」が誕生したのは平成17年の2月、強い使命感と少しの不安を抱えての船出でした。地域に暮らす人々が年をとっても、障がいを持っていても、どう生活したいかという意志や権利が護られていくための権利擁護活動が始まりました。多くの仲間の賛同を得て支え続けられた5年間でした。相談事業や成年後見活動を通じて様々な人と出会いました。そしてお別れもありました。人生の最期までその人と過ごすことができたこと、共に寄り添って下さったご家族や介護に携わっている人たちに感謝しています。私たちを取り巻く生活環境は日々変化しています。相談で出会うのは「今、問題を抱えている人」であり、私たちと同じ市民です。「あさがお」は、そんな人々の一助となるべくこれからも歩んでいきます。

※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

## おうみ未来塾 リレーエッセイ

### 「絆」を深めて

2期生 伊藤 正則(いとうまさのり)  
グループ：敬天愛人

Ohmi Miraijyuku Relay Essay



人生80年時代。定年後10万時間の自由をどう活かすかを現役時から思い、“浜大津こだわり朝市”事業に参画し6年目を迎えたが、今回、「地域社会の“絆”を取り戻す活動」を主とした“NPO法人SOL”にも参画。高齢者や母子家庭等の会員が自分らしく生きるための生活支援を通して生き甲斐と豊かな心を醸成し、地域の絆を強めようと活動を始めた。当面は大津市中心部をその範囲としている。またPRを兼ねた“情報交換や団欒の場としてのサロン”を週1回開設、ここでは昔取った杵柄で楽器演奏も楽しんでいる。これから様々な人生経験を持つ会員がスタッフとして活動に参画する場面をも期待し、“ケガと弁当は自分持ち”の精神で進みたい。

※10万時間の自由とは：定年からの20年間に時間を置き換えると17万5千時間。そのうち食事・睡眠等、命をつなぐに必要な7万5千時間を除く残りの時間をいう。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

## ●NPOさぽーとぽけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

## NPO SUPPORT POCKET

### NPO 法人と登記手続き

NPO法人設立後、法人を運営していく上では、何度も登記手続きが必要となります。どんな場合に登記手続きが必要なるのでしょうか。淡海ネットワークセンターでも「登記手続きを忘れていたのですが、どうすれば…」というご相談が時々あります。今回は運営上での登記手続きについてご紹介します。

#### ■どんな場合に登記手続きが必要なの？

次の場合に登記手続きが必要となります。

#### ●役員に係る変更(役員が重任した場合、辞任した場合、役員の住所・氏名を変更した場合)

役員(理事)の任期途中で辞任など変更があった場合はもちろんですが、任期満了に伴い全員重任された場合も登記が必要です。役員の任期ごとに定期的に登記を行います。

所轄庁(※)にも同様に届ける必要がありますが、所轄庁へ届ける「役員の変更等届出書」には、理事・監事ともに記載しなければいけません。

※「重任」とは、任期満了になった役員が退任と同時に再任され、就任することです。

#### ●定款の変更

定款の変更があった場合に登記が必要です。

目的の変更・法人の名称の変更・活動分野(17分野)および事業に関しての変更など、総会で変更した場合です。

これらの登記には、事前に所轄庁の認証が必要なものがあります。この場合、認証を受けてから登記することになりますので、所轄庁でお尋ねください。

#### ※所轄庁

滋賀県で認証を受けたNPO法人は  
滋賀県民活動課  
TEL：077-528-4633

内閣府で認証を受けたNPO法人は  
内閣府市民活動促進課  
TEL：03-3581-9308

#### ●事務所の移転等

主たる事務所・従たる事務所を移転したときは、定款変更の有無にかかわらず、登記が必要です。また、従たる事務所を設置したり、廃止したりしたときも同様です。

#### ●資産の総額の変更

総会や理事会で承認された財産諸表にある、事業年度末の資産総額を登記します。

#### ●合併した場合

#### ●法人を解散した場合

#### ●法人の清算が終わった場合

#### ■法務局で聞いてみよう

登記手続きについて不安がある時、分からない時は、法務局へ聞くこともできます。法務局のホームページからお近くの法務局の連絡先、所在地を調べることができます。

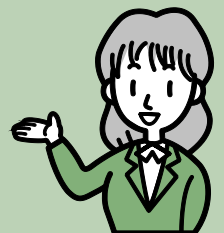
各申請書の様式と記入例も公開されています。

インターネット「法務局」で検索してください。

URL：http://houmukyoku.moj.go.jp/homu/static/

#### ■専門家への相談

司法書士は登記手続きの専門家です。淡海ネットワークセンターでは、税務、労務、登記などNPO法人の運営にかかる専門家のネットワークを滋賀県内でつくり始めています。随時、ご相談を受け付けておりますのでお気軽にご連絡ください。



近藤隆二郎さん  
プロフィール



自転車タクシー運営やまっくらカフェ、輪の国びわ湖などを行うNPO法人五環生活代表理事。滋賀県立大学環境科学部准教授。専門分野は「環境計画・環境コミュニケーション」。人と環境の絡み合いの再構築を、巡礼、エコビレッジ、自転車などをテーマに身体から実践している。

## まちのバスを考える ～市民でつくる公共交通～

最近、バスに乗りましたか？ クルマ社会が進み、バスの廃線が各地で進んでいます。一方、高齢化社会では、車に代わる交通が必要とされています。温暖化防止の観点からも、公共交通の利用は効果があります。今、まちのバスを自分たちで守ろうと、市民がバスを走らせる地域が出てきています。今回は市民でつくる公共交通についてご紹介します。

### 市民が支える交通とは

NPO法人五環生活

近藤隆二郎さん

「バス停にぼつんと年寄りがいたら恥ずかしいわ」と車で送る壮年男性。その一方で、おばあさん方からは「家族に気兼ねして自由に外出もできん」と。暮らしに「移動」は欠かせませんが、公共交通を考える機会は少ないのです。なぜでしょうか。

ひとつは、マイカーを前提とした暮らしになっていくからです。駅前には無料駐車場があり、家族送迎ばかりです。乗らなくなったバスは、経費削減の観点から本数や路線を見直すことになり、さらに不便になり、不便なバスにはもう誰も乗らないという負のスパイラルに陥っています。「不便だから乗ら(れ)ない」のではなく、「乗らないから不便」なのです。

また、公共交通をバス事業者と行政担当課中心で決めてきたことも、市民との距離が開きました。昨年から設置された公共交通活性化協議会等には、地域代表や団体代表が参加しています。とはいえ、まだ「移動」が身近な問題ではありません。困ったことに、公共交通は交通課、福祉移送は福祉課、自転車啓発は環境課などと行政内で分断されているのです。生活者からとらえれば同じ移動のメニューなのにはです。

この閉塞感を打破するには、集落がどの程度の「移動力」を持つかという実態から把握する必要があります。マイカーが使えなくなったら？他の移動手段は？乗合をしますか？NPOや自治会、企業などを単位として、「移動力」を考える場を提案しています。自身の移動力を見なおす「交通力診断シート」や「地区別移動カルテ」を開発することで、交通について客観的に見えるようにしています。

「誰か乗るだろう」から「〇〇さんがいつどこまで乗る」といった緻密な把握が大切です。つまり、「必ず乗る」数を共有することです。目標値を共有できれば、集落と公共交通網全体とをリアルにつなぐことができます。行政も均一的なサービスにこだわるのではなく、利用が多い地域を優遇すべきです。「乗れば乗るだけ良くなる」といった成果を実感できれば、市民活動と交通とが結びつくことになります。商業施設等も、駐車場経費を全利用者一律負担させていることを認識し、バスや自転車利ユーザーを優遇するよう考えてみてはどうでしょうか。

買い物バスや廃油回収バス、地方都市型カーシェアリングや福祉型自転車タクシー、自転車持ち込み列車であるサイクルトレインなどは、分断されてきた「個」が、つながりを持つ「共」へと再生していく魅力的なアイテムなのです。生活のインフラである交通ですが、市民・行政・企業など、ともに支えることで広がる可能性を持っています。

## 全国初、市民でバスを走らせた町

NPO 法人生活バス四日市

### ●バス路線の廃止と住民アンケート

路線距離9.5キロの「生活バスよっかいち」が走る地域は、四日市市の北部、人口約1万6,000人の羽津地区。住宅地と最寄り駅、郊外のショッピングセンターや病院への行き来にはマイカーが一般的な地域である。

2002年5月、住宅地と近鉄四日市を結び、主に通勤通学を目的に運行していたバス路線が利用者減少から廃線となった。これにより地域の一部が最寄り駅や存続するバス路線への交通手段を失うことになり、住民アンケートが実施された。そこには、高齢者や運転をしない主婦から移動手段が無くなる事への不安の声が寄せられてきた。

### ●地域福祉のためにバスを走らせよう



▲39人乗りのバスが住宅地と駅やスーパー、病院を縫うように走る。乗客は「移動する応接間だよ」と話してくれた。

「バス運行は移動手段を無くした高齢者の通院、買い物、介護予防としても、早急に必要でした。」とNPO法人生活バス四日市理事長 西脇良孝さん。「スーパーや駅まで2～3キロの範囲ですが、高齢者にとっては買い物も通院も移動手段が無いと出にくくなってしまいます。地域福祉のため

にバス運行の検討を始めました。」

検討と立案には、地元自治会、路線バスを運行する三重交通、四日市市、スーパーなど企業が参加した。経路は、利用者とのワークショップにより、これまでバスが走らなかった住宅地内を走り、病院・医院、公民館などを回り、買い物先であるスーパーサンシまで、1日5.5往復とした。運賃は1回100円。主な利用者である高齢者に配慮してバス停は200～300m間隔で作った。経費削減のため、家庭に自動車がある土曜日・日曜日は運休し、平日及び祝日のみ運行。バス運行は安全面から三重交通に委託し、運営管理をNPO法人が行う。地元企業から協賛金を集めて資金とすることとなった。

廃線から5ヶ月後には試験運行を行い、翌年4月のNPO法人生活バス四日市設立を目標に動き出した。

### ●全国でも注目！ずっとバスを走らせるために

7年間の運行で、利用者の要望を受け、路線の延長やバス停を増やすなど利便性を向上させてきた。当初1日平均70人だった利用者は、2007年からは100人を越えた。運転手、利用者同士など会話が弾み、バスは高齢者の交流の場にもなっている。2008年に総務省の地域づくり総務大臣表彰を、2009年に経済産業省の「ソーシャルビジネス55選」を受賞し、全国的にも注目を集めている。

毎月の収入は運賃収入が10万円、協賛金が50万円、市補助金が30万円。支出は三重交通へ運行委託経費80万円、事務費や人件費に10万円をあて、運営はスタッフのボランティアで行われている。中心メンバーは60代後半。これからの課題は若手への世代交代。ずっとバスを走らせるために、挑戦はまだ続く。

【問】NPO法人生活バス四日市  
三重県四日市市大字羽津戊595 TEL・FAX：059-361-6686

## 自分たちのバスは自分たちで育てる町

株式会社余呉バス

### ●余呉町のバス事情

余呉町は人口約3,900人。高齢化、過疎化が進む地域である。バス利用者の多くは高齢者。バスは病院、買い物への足であり、高齢者にとってはライフラインである。

元々町内と駅を結んでいたJRバスが赤字の増加により撤退。その後、余呉町が湖国バスに委託してタウンバスが運行された。しかし、バス運行にかかる赤字は年々増加。町の負担は大きくなる一方で、バス運行への批判が高まっていた。

### ●「もしバスがなくなったら！」余呉のバスを考えよう

「空気を運んでいる」「税金のムダ」など批判が高まり、バス廃止も検討される一方、住民から「バスが無くなるとは生活できない！」と切実な声上がる。どうすればバス運行を維持できるのか、町と住民がともに余呉のバスについて話し合う場が持たれた。「毎日乗らなくても、バスが決まった時間に地域に来ることで高齢者に安心と安全を提供することになります。」と総務課課長補佐 大沢 誠さん。

余呉町が呼びかけた公共交通再編研究会に参加していた木下重樹さんは、元JRバス職員でバス運行と経営に関する資格と経験を持っていた。木下さんは、「小さな規模で運行することでコストは下げられます。運転手も顔の見える町内の経験者で、地域のバスの安全で安定した運行を自分たちでしたい」と、株式会社余呉バスを資本金100万円で設立した。

### ●自分たちのバスは自分たちで育てる

高齢者割引の1乗車料金はこれまでの倍の200円になったが、バスを守るためならと利用者からの反対は無い。「バス運行にとって住民はパートナーです。お互いに顔を向かい合わせて運行などを見直します。共に守り、育てていくのが地域のバスなんです。」と木下さん。

2008年11月から運行を開始し、朝夕の通学と通勤に合わせた駅への路線、病院や買い物の時間に合わせた路線など目的に合わせた柔軟な運行が工夫されているが、1年目の総事業費約4,500万円の56%は県と町の補助に支えられている。

余呉バスの運行に合わせて、利用者と余呉バスを結び「余呉のバスを育てる会」が設立された。「まちのバスは自分たちで育てる」という、住民意識がまとってきた結果だ。路線運行以外に、貸しバスや観光客向けバス運行などの事業への抱負もふくらむ。



▲料金を50円単位とした。回数券もこの1冊で全ての料金を使える。ここにも経費削減の工夫がされている。

【問】株式会社余呉バス 滋賀県余呉町中之郷956-2 TEL：0749-86-8066  
余呉町役場総務課 TEL：0749-86-3221

## 県内で検討されているバスのご紹介

### ■「ぐるっと平野号」の運行に向けて

国道1号線を挟む平野学区南北間の移動手段の確保を目的に、生活バス「ぐるっと平野号」の来秋運行を目指しています。このため、「わが街つくる会」を法人化し、その事業の一つとして生活バスの自主運行を図る計画です。運営資金の調達、採算性の検証、運行計画の検討、住民との合意形成など解決すべき課題は多くありますが、「自分たちの生活バス」を平野学区に走らせようを合言葉に活動を続けています。

団体名：平野学区わが街つくる会 代表者：雨宮 優  
連絡先：膳所駅前商店街振興組合事務所内  
TEL：077-527-6636

### ■公共交通機関を考える

住民を乗せて当たり前のように街中を走っていた京阪バス、江若バスが約3年前に「赤字路線なので」と廃止になり、高齢者が通院や買い物に気軽にいられなくなっている現状。温暖化対策、地域福祉のためにも交通網の整備により、誰もが気軽に外出できる地域になれば幸いと、一丸となって進んで行く覚悟です。

団体名：唐崎にバスを走らせる会 代表者：長尾 寿  
連絡先：唐崎にバスを走らせる会事務局 高田順次  
TEL：077-578-5753

### ■青山学区内地域バス事業について

人口約1万人規模となる青山学区。大津市郊外のため、昼間の交通利便に難点があり、3年前のNPO法人設立当初から高齢者の生活交通手段の確保は重点施策でした。本年、しがぎん福祉基金の助成により車両購入費を得ることができました。現在、運営に必要なランニング費用、運行人材の確保、保険費用等について、条件整備を進めています。

団体名：NPO法人青山まちづくりネットワーク  
代表者：田中 靖浩  
TEL：077-535-5257

### ■旧志賀町域の住民の足として

旧志賀町域には一部の地域を除いてバス路線がなく、高齢化も進むなかJR駅から遠い住民たちが日々の通院や買物の足を求める声は切実さを増しています。「あしの会」は大津市の補助金も得て、09年10月と11月にそれぞれ巡回バスと予約制乗合タクシーのテスト運行を行いました。この結果をふまえて、問題解決への一歩を踏み出したいと考えています。

団体名：暮らしの足を考える会(あしの会)  
代表者：川島 健也  
TEL：077-592-8112

自分たちにとって必要なものは、自分たちでつくる。そこには、市民、企業、行政など、地域に生き、地域に関わる人の知恵と力を寄せ合う工夫がありました。また利用する高齢者も交通を支えるひとりだと思える地域は、誰もがまちづくりに参画し、誰もがまちの主役であるとも言えます。おうみネットでは、これからも各地のバスに注目していきたいと思えます。

## 住民と町と企業と みんなでバスを考えた町

### 当別ふれあいバス

#### ●当別町の財政を住民と見直し

北海道石狩郡当別町は、大都市札幌市に隣接する人口約2万人の町。札幌市や江別市など近隣都市への移動は一般的に車が利用される地域である。2004年、近隣市町との合併が白紙になったのをきっかけに、住民とともに町の行財政システム再構築プランが検討されることになった。そのプランに高齢者や車の運転ができない住民の声を聞き、誰もが利用しやすいバス交通体系の確立が重点施策の一つにあげられた。

#### ●誰もが使いやすいバスのために

当時町内では、路線バスや福祉バスを運行する当別町、JR駅と大学を結ぶ北海道医療大学、北洋交易株式会社による住民送迎バス、とうべつ整形外科のそれぞれがバスを走らせていた。バスは何本も走っているが、住民にとって利用できるバスは限られていた。2005年、利便性の高いバス運行と各事業者の運行にかかる経費の削減を目的に、これら複数の事業者のバスを統合し、一元的な管理をするために検討が始められた。

この検討会議に、町内で廃止路線代替バスの運行実績もある(有)下段モータースも参加していた。2006年、中古バスを利用し、町内退職者の雇いで、より安価なバス運行を提案した下段モータースに運行事業を委託し、実証運行が開始された。運行1年目は、約5千万円の総事業費のうち、国補助金1千万円、参加企業負担金約3千万円、運行収入約840万円であった。2年目、3年目の運行収入は約1千万円と増加してきている。しかし、



▲誰もが使いやすいバスの実現のために、ノンステップバスが導入されている。

2010年の実証期間終了後は国の補助が無くなる。運行収入約1千万円と負担金で運営することになり、試算では約300万円の不足となる。最終列車後の深夜便の運行、回数券の発行や応援券の値上げなど収入を上げる工夫を凝らしながら、2010年の本格運行へ準備が進められている。

#### ●バスが地域を導く

継続した運行のために、バスへの理解を広げ、かつ経費削減の仕掛けの一つが、家庭や飲食店から回収した廃天ぷら油を再利用したバイオディーゼル燃料の活用。バス停やバス車内での回収などが工夫され、2007年は使用燃料の53%をまかない、毎年回収量が増加している。バスをテーマに小中学生への環境教育も実施し、試乗会も行っている。燃料費の削減だけでなく、住民の環境意識の向上にもつながり、バスへの関心を広げている。今年10月からは、図書館の本をバスで返却できるようにもなった。

バスが人、モノ、情報もつないでいる。住民によって支えらるるバス運行が地域をつなぎ、地域づくりを先導し始めている。

【問】当別ふれあいバス 当別町企画課企画振興係  
北海道石狩郡当別町白樺町58-9 TEL：0133-23-3042

話 草津点字グループ「あゆみ会」(草津)

視覚に障害を持つ人が指先で読み取る小さな点々。点字表示は、近年ユニバーサル化の観点から建物の案内板、エレベーターのボタン、缶の酒類の識別など私たちの身の周りに少しずつ広がっています。その点字も今年フランスの発明者ルイ・ブライヤ生誕二百年、そしてまた日本での開発者石川倉次の生誕百五十年という記念すべき年にあたっています。そんな中、草津で点訳活動に取り組んでいる草津点字グループ「あゆみ会」を訪ねました。

「あゆみ会」は、視覚障害者が豊かな社会生活を営めるよう、一九八〇年の創立以来、点訳をはじめとした様々な活動を行うボランティアグループです。

指先で伝える思い

主な活動は、図書館の蔵書や雑誌「PH P」の点訳の他、草津市や社協の広報紙、選挙に関する情報など多岐にわたります。点訳の作業ばかりでなく、小中学生を対象とした点字体験教室や点字を読むことのできない中途失明の人たちへの点字レクチャーなど、点字への理解を広める取り組み



▲出来上がった点字が正しく打てているかの点検

みにも力を入れています。点訳は、見出しの位置やマスあけの決まりなど、いろいろな規則があります。昔は点字板やカニタイプと呼ばれる点字タイプライターで一文ずつ点字を打ち込んでいたところ、近年ではパソコンのおかげで複製もできるようになりました。ですが、正しく打っているかは今でも全て指先で確認しなければならぬので、とても細やかな作業です。昨今仕上げた「ハリーポッター」最新刊はグループで分担しても上巻だけで半年かかったとか。

そんな大変な活動ですが、自分の打ち込んだものが、どこかで誰かのお役に立っている、という喜びは何にも代えがたいとのこと、会のメンバーの元気をささえています。

(おうみネットサポーター 松田 達也)

草津点字グループ「あゆみ会」

代表●森 美知子 会員●30名  
 設立●1980年  
 連絡先●草津市草津3丁目13-25  
 草津市社会福祉協議会内  
 TEL：077-562-0084  
 FAX：077-566-0377



▲パソコンでの点字のタイプ作業

NPOの

輪

わっ  
WAWA

和

話

地域や社会を良くしていきたいとがんばっている市民活動・NPOを紹介します。興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

おうみネットを一緒につくりませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。

話



●あゆみ会の活動風景

輪



●「くつきの森」で山仕事体験をする地元小学生。間伐体験のひとつです。真剣な取り組みから、自然への愛情が育まれます。

和



●青山夏祭りの名物、竹灯籠

「豊かな森を取り戻そう！」  
自然からのメッセージを届けます

麻生は、朽木の山懐に抱かれた山の中。山  
あいの道を辿ると、紅葉に彩られた木立の間  
から、赤レンガ色の瀟洒な建物「くつきの森  
やまね館」が現れます。自然の宝庫「くつきの  
森」より、自然からのメッセージをお届けし  
ます。

二〇〇六年、「くつきの森」を管理する「麻  
生里山センター」が発足。地元の方々が理事  
となり、「森を何とかせなあかん」と立ち上げ  
ました。代表理事は玉垣勝さん。合併前の最  
後の朽木村長さんです。朽木の歴史と伝統  
がしっかりと引き継がれています。常駐ス  
タッフは三人。経理に強くひげがトレード  
マークの川島博明さん。健全なNPO活動に  
は欠かせない存在です。そして、「くつきの



▲自然の彩り、香り、音色、肌触り…。  
森林ヨーガ体験は、これぞ「森林セ  
ラピー」、「ヨガ」の極致といったと  
ころでしょうか。

森」の生き字引、ゴンちゃんこと中村哲さん。  
山仕事、ハイキング、木工など何でもこなせ  
る名ガイドとして一番の人気者です。最後に  
忘れてはならないのが、すべてをテキパキと  
仕切っている紅一点、加藤みゆきさん。明る  
くて元気な女性です。こんな、ユニークなス  
タッフに支えられて、森の自然が守られてい  
るのを実感  
しました。  
取材に应对  
された加藤  
さんに、将  
来の夢など  
想いの丈を  
語ってもら

いました。——「多くの若い人や子どもに、  
里山の体験を通じて、森林の大切さを学んで  
ほしい」「いろいろな人々に、森の力が心と  
身体を癒すという「セラピー効果」にも注目し  
て、くつきの森にもっと足を運んでほしい」。  
最近一番の売りが「森林ヨーガ」だそうです。  
「自然をクッションに、身も心も大地にゆだ  
ねる爽快感はまた格別」と、目を細められま  
した。  
帰途、近くの「ユリノキ広場」を訪ねまし  
た。広場にひとときわ高くそびえるくつきの森  
のシンボル「ユリノキ」が、梢を揺らしながら  
自然からのメッセージを届けてくれました。  
「豊かな森を取り戻そう！」と。「くつき」に  
は、自然が溢れています。伝えきれないところ  
ろは、ぜひHPで、そして直接足を運んで、  
自然の息吹に触れてみてください。  
(おうみネットサポーター 荒木 威)

特定非営利活動法人  
麻生里山センター

(高島市森林公園「くつきの森」指定管理者)  
代表●玉垣 勝 会員●53人 設立●2006年  
連絡先●高島市朽木麻生443  
TEL: 0740-38-8099 FAX: 0740-38-8012  
E-mail: asosatoyama@zb.ztv.ne.jp  
HP: 「森林公園くつきの森へようこそ」で検索



▲くつきの森の拠点施設「や  
まね館」。宿泊やイベン  
トも…滞在型の環境教育・研  
修に最適です。

特技や関心を活かして、誰もが参加して、  
楽しみながらまちづくり

大津市東の丘陵地に  
二五〇〇戸の大きな新興住宅  
地があります。そこに「NPO  
法人青山まちづくりネット  
ワーク」がまちづくり役場を  
拠点に元気に活動していま  
す。

毎年八月に行われる青山夏  
祭りは、各自治会からの模擬  
店と近隣の店舗からの出店  
賑わい、近隣の住民も集つ  
て、一万人もの人々が参加す  
る大きなお祭りになっていま

す。このお祭りは、当初自治会主催でして  
いましたが、自治会役員は一年交替のため、



▲子どもたちに里山で楽しく、たくましく遊んでほしいと、  
竹林を整備しています。筍堀や竹炭焼きも楽しんでいます。

する「こいも倶楽部」、自転車修理事業およ  
び十二の飲食店があるプロムナード青山と

継続性に難点があり、運  
営を支援する組織として  
NPO法人を設立しまし  
た。というのは、NPO  
設立のよくあるパターン  
ですが、活動は夏祭りの  
ほかにも大きく広がって  
います。以前から学区内  
の環境整備活動をしてい  
る「ボランティア青山」の  
ほか、里山保全活動をす  
る「牟礼山森林クラブ」、  
一時預かり保育所を運営

賃貸駐車場の清掃管理もしています。それ  
ぞれのグループが青山まちづくり役場を拠  
点とし、つながりながら活動しています。  
メンバーは、青山学区社会福祉協議会や  
青少年育成学区民会議などの役員でもあり  
ます。自治連合会との関係も親密で、今年  
建設された青山市民センターの設立にも計  
画段階から参加し、住民にとって使いやす  
い模範的な施設ができたということです。  
理事のみなさんは、「ボランティア活動  
が根づいていること、犯罪が少ないこと、  
拠点があるので、誰でも気軽に立ち寄れる  
たまり場があることが、青山学区のウリで  
す」と言われていました。高齢者も子ども  
も、誰もが楽しみながらまちづくりに参加  
できるまちです。  
(おうみネットサポーター 平井 育恵)

特定非営利活動法人  
青山まちづくりネットワーク

代表●田中 靖浩 会員●22人  
連絡先●大津市青山5丁目13-1  
TEL: 077-535-5257  
FAX: 077-532-2465  
E-mail: staff@aoyama-network.com  
URL: http://aoyama-network.com/



▲木の色があたたかい、まち  
づくり役場。いつも誰かが  
いることで、気軽に立ち寄  
れるたまり場です。



## おうみ未来塾成果発表会

市民活動が地域活性を促し、地域運営の一翼を担うようになった今、「おうみ未来塾」は広いネットワークと創造力で課題解決に取り組む「地域プロデューサー」が育つ場を目指しています。今回、10期生が地域課題に取り組んだ塾活動を報告します。市民活動を始めるヒントを見つけていただける機会にしたいだけだと思います。ご参加お待ちしております。

- 日時：3月7日(日) 13:00～
- 場所：県民交流センター(ピアザ淡海)3階 大会議室
- 参加費：無料
- 各発表テーマ：「中心市街地の再生～商店街の賑わいを取り戻すには～」・「綿づくりを通じて「人の輪」を広げよう」・「中小規模農家の自立経営」・「地域と仕事と子どもを繋ぐ、ヒッサツ!仕掛け人」について

## 第7回(2009年)「おうみNPO活動基金」助成事業成果発表会のご案内

NPOの経営基盤強化を目的に実施している「おうみNPO活動基金」助成を受けている17団体が、助成事業の成果を発表します。公開で行いますので、ぜひお越しください。

- 日時：2月27日(土) 10:30～16:50
- 会場：県民交流センター(ピアザ淡海)204会議室
- ※入場無料。詳細は、ホームページに掲載します。

## 淡海ネットワークセンター主催 地域づくりフォーラムを開催します!

「地域づくり」を映像や地域サロンや地域ブランドを切り口に、それぞれの地域にある資源を見つけ、まちをもちあげ、人々をつなぐヒントをともに考えるフォーラムを開催します。地域づくりにつながる市民活動に取り組む団体・NPO、ボランティアグループなどのパネル展示もあります。みなさまのご参加をお待ちしております。

- 日時：1月31日(日) 11:00～17:00
- 場所：県民交流センター(ピアザ淡海)3階 大会議室
- 参加費：500円
- 地域づくりフォーラムスケジュール  
11:00～ 基調講演「地域にあるチカラを見つける」  
宮崎文化本舗 石田達也さん

- 12:00～ 昼休み
- 13:00～ 分科会  
「地域と人をむすぶ 映像のチカラ」  
「地域と人をむすぶ 地域サロンのチカラ」  
「地域と人をむすぶ 地域ブランドのチカラ」  
「地域と人をむすぶ NPOのチカラ」
- 15:00～ 各分科会報告
- 15:30～ パネル展交流会
- 17:00 終了
- お申し込み方法：ご参加者氏名、連絡先を淡海ネットワークセンターまでご連絡ください。  
※詳細については、チラシ、ホームページをご覧ください。

## 「おうみNPO活動基金」にご寄付をいただきました。

いただいたご寄付は、当財団の「おうみNPO活動基金」の原資に加え、県内のNPOが取り組む活動への支援に活用させていただきます。ありがとうございます。  
●しがぎんリース・キャピタル株式会社様  
……………25万円  
地域で展開されている環境保全活動への支援として、5年前から毎年収益金の一

部をご寄付いただいています。  
●大阪ガスグループ京滋地区  
“小さな灯”運動様……………5万円  
地域で活動するNPOへの支援として、企業ボランティア活動“小さな灯”運動の一環で実施されたチャリティカレンダー募金活動による収益金の一部をご寄付いただきました。

## 淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

- 〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階
- TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
- http://www.ohmi-net.com
- E-mail:office@ohmi-net.com
- 開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。  
県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域環境総合事務所、県民情報室など

## 編集後記

点訳のあゆみ会のメンバー、皆さんおしとやかだそうで、代表の森さんによると点訳体験教室など人前に立つのを皆が敬遠するので大変とのこと。「どこかで誰かのお役に立つことがうれしい」という点訳活動の性格が出ているお話かななんて思いました。(おうみネットサポーター 松田達也)

「聴こえてくる森の揺らぎ～琵琶湖の水源地をめぐる里山の旅」一心地よい響きのキャッチフレーズに魅せられて、朽木の懐深くに抱かれた「麻生」を訪ねました。そして、燃えんばかりの紅葉に包まれながら、自然の彩り、香り、音色、肌触りに癒された、そんな取材活動でした。(おうみネットサポーター 荒木 威)

「ああ、時間の余裕がない。でも、お話は是非とも伺っておきたい」。迷いながらも事務局遠藤さんと、サポーター岡崎さんにご同行願って取材は実現しましたが・・・原稿は遠藤さん、写真は岡崎さんにおんぶにだっこになってしまいました。ごめんなさい!感謝と反省をこめて。(おうみネットサポーター 平井育恵)

## 税務・会計のご相談は…



税理士法人なぎさ中央会計

税理士 川辺 恵子  
税理士 中野 泰子

〒520-0801  
滋賀県大津市におの浜一丁目1-57  
TEL:077-527-5762  
FAX:077-527-5763

## 京阪電車大津線は… 地域に愛され 信頼できる鉄道でありたい

<お問い合わせ>

京阪電車 大津鉄道事業部 077-522-4521



京阪大津線全線(京津線・石山坂本線)が1日乗り放題!

湖都古都・大津1dayきっぷ

通年発売

沿線50余りの施設や社寺で飲食代、入場料等の割引や記念品進呈などの特典あり  
【発売額】大人500円・学生400円・小児250円

京阪電車大津線公式 web サイト <http://www.keihan-o2.com>